



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年01月24日 第1053号「週刊五十嵐レポート」

## 小さな会社を強くする従業員教育

優秀な人材は大企業に行くか、もしくは今なら起業する。中小企業、特に小さな会社には来ない。会社を強く、成長させるには従業員教育は欠かせない。多くの企業は講演会等に従業員を派遣するか、教育専門会社に研修を依頼する。そうすると、自社の独自性や他社との違いを築くことは難しい。

小さな会社の場合、社長がインストラクターとなって、寺子屋方式で従業員に直接教育していく。弱者の戦略でいう「接近戦・直接戦」になる。教材は会社の規模・業種に合った教材を選ぶ。

教育を通して社長の経営に対する考え方が伝わる。会社は粗利益で生きており、粗利益はお客からしか生まれなため、従業員の関心をお客に向くように促す。放っておくと従業員は社内の人間関係に向かってしまう。社長が直接教育すると、従業員一人ひとりの考え方や資質が分かるようになる。教育を通じて、今後何をすべきか課題が見えてくる。社長が改めて経営について考えるため、社長が一番成長する(教える人が伸びる)。

中途採用の新入社員に社長自ら初めて教育をしたA氏。「研修の感想を聞いたら、『社会人になって、会社の仕組みを意識したことがなかった。会社がそうやって成り立っていることを知らなかったことがわかりました』と言っていた。経営陣にとって当然知っているべきことですが、知らないのが当たり前なんだと再認識した。目線を合わせて進めていく」。

継続して従業員教育をしている社長B氏。「従業員は通常、給料や自分の生活のことを考え、職場の雰囲気や周りの人間関係を気にする。教育を通して、会社の大本を学ぶと、顧客の方を見て丁寧な対応をしてくれる。また成長する人とそうでない人に分かれる。年功や勤続年数ではなく、リーダー候補生が見えてくる」。またある社長は、「教育を通して、コミュニケーションのパイが太くなり、経営の良き理解者になってくれる」。

従業員教育はお互い大事な時間を割く。しかしすぐには効果が出てこない。小さな会社にとって、研究開発費に相当する。時間はかかるがいずれ強い戦力になる。

ちょっと  
気になる出来事

1月20日付日経新聞、「逆風順風」は「毎日5分の難しさ」。

元中日ドラゴンズの山本昌氏が野球殿堂入りを果たした。名を成した投手の中で「一番球が遅かった」と言われている。

山本氏は後輩に、「球が遅くても工夫次第で抑えられる。あきらめたらおしまい」とエールを送る。

山本氏の成功も努力があつてこそ。

重さ2キロのダンベルを使う運動を70パターンほど考案。

そのうちの2, 3個を毎日寝る前に5分。

これを30年以上続けた。

5分だから面倒くさくなく、つらくなかった、という。

これが凡人にはなかなかできない。

5分×365日×30年=54,750分=912.5時間÷38日。30年やったとしてもそんなに多い時間ではない。でも微差が大差になる。毎日の朝礼も従業員教育の一環と考えれば、会社も強くなる。



一口メモ  
知識

### 原因を探る

往(おう)を彰(あきら)かにして来(らい)を察し、顕(けん)を微(び)にして幽(ゆう)をひらく。

「往」は過ぎ去った時。

「顕」は顕著に現れている現在の状況。

「微」は現在の状況を作った微細な要因。

「幽」は眼に見えない物事の根本。

過去を明らかにし、現在を把握し、それをもとに未来を察知する。

今、眼にしている現象も、微小な原因から育ったものである。

原因を知れば、現象の裏側にある根本が見え、

そして、将来の有り様を察知することもできるようになる。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

